

御 嶽 山

概況(平成14年10月)

火山活動に特別な変化はなく、落ち着いた状態が続きました。

地震活動は落ち着いた状態がつづいており、火山性微動は観測されませんでした。噴気地帯の状況に変化はなく、噴煙活動に異常な変化は認められませんでした。火山活動によるとみられる地殻変動は観測されませんでした。

地震活動の状況

火山性地震の発生状況は、1日あたり0～数回、月回数100回前後で推移しており、地震活動は落ち着いた状態が続いています。火山性微動は観測されませんでした。

表1 火山性地震日別回数表(御嶽山)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
	1	3	0	2	0	1	2	1	6	3		19	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
	5	5	3	1	2	2	3	4	4	3		32	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
	4	7	1	1	5	2	2	3	0	0	0	25	76

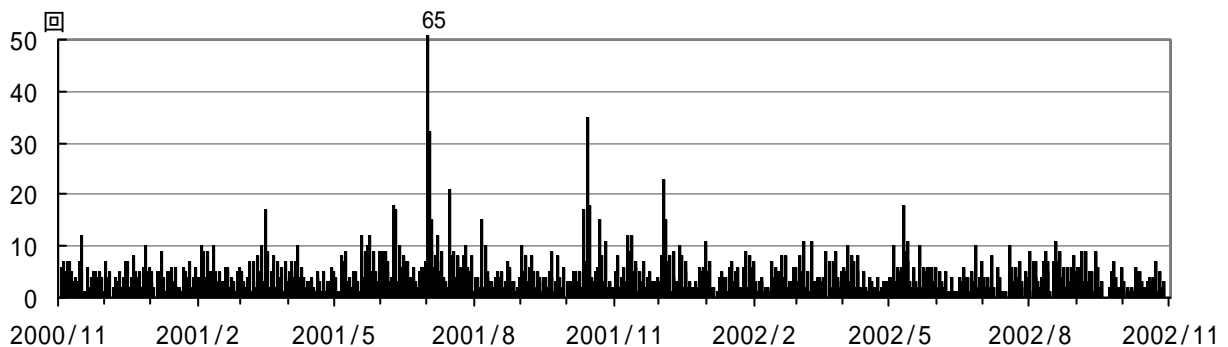


図1 御嶽山 火山性地震日別回数(2000年11月1日～2002年10月31日)

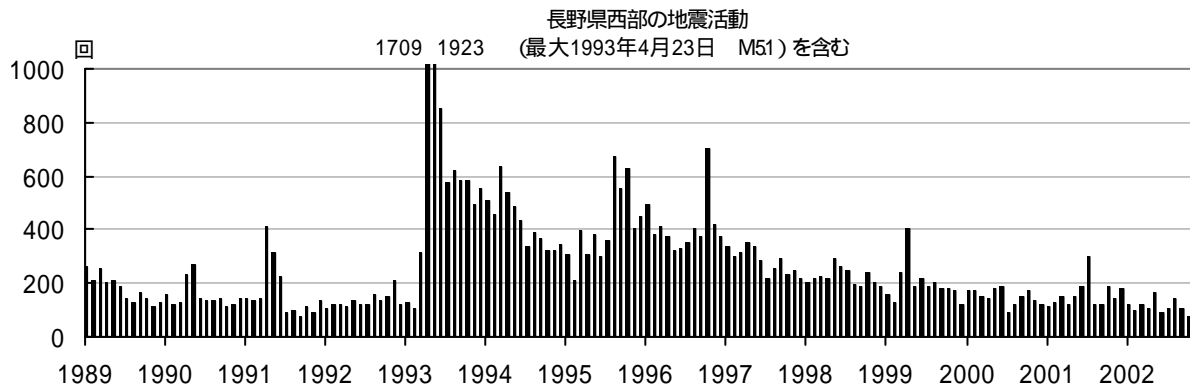


図2 御嶽山 火山性地震月別回数(1989年1月～2002年10月)

噴気地帯の状況

10月3日から6日にかけて、御嶽山王滝頂上噴気地帯の噴気温度観測および地獄谷噴気地帯の遠望観測を実施しました。噴気活動は、2002年7月に行った前回の観測時と比較して大きな変化は観測されず、落ち着いた状態が続いています(表2、図3～5)。

次の噴気地帯の観測は、来年春に実施する予定です。

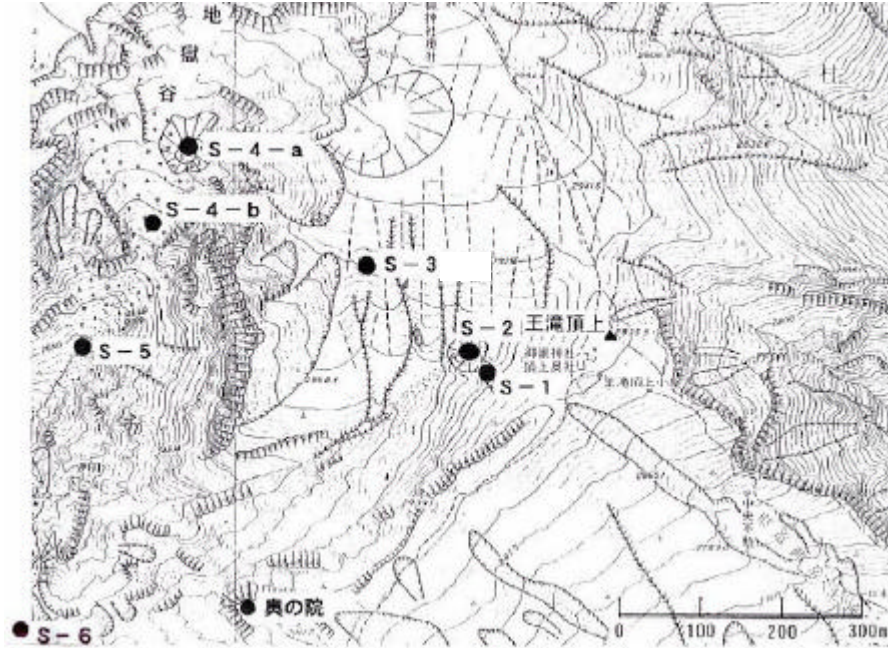


図3 御嶽山 噴気地帯分布図

表2 噴気地帯の状況

観測地点	噴気状況	その他
王滝頂上 (S-1)	4つの噴気孔からごく弱い噴気を確認。	強い硫黄臭あり。 噴気孔周辺に硫黄昇華物付着。
王滝頂上 (S-3)	大きな噴気音を伴いながら数十 m 程度の高さまで達していた。	強い硫黄臭あり。 噴気孔周辺に硫黄昇華物付着。
地獄谷 (S-4)	数十 m 程度の高さまで達していた。	奥の院および剣ヶ峰からの遠望観測
地獄谷 (S-5)	大きな噴気音を伴いながら数十 m 程度の高さまで達していた。	"
地獄谷 (S-6)	間欠的に数十 m 程度の高さまで達していた。	" (前回は確認できず)

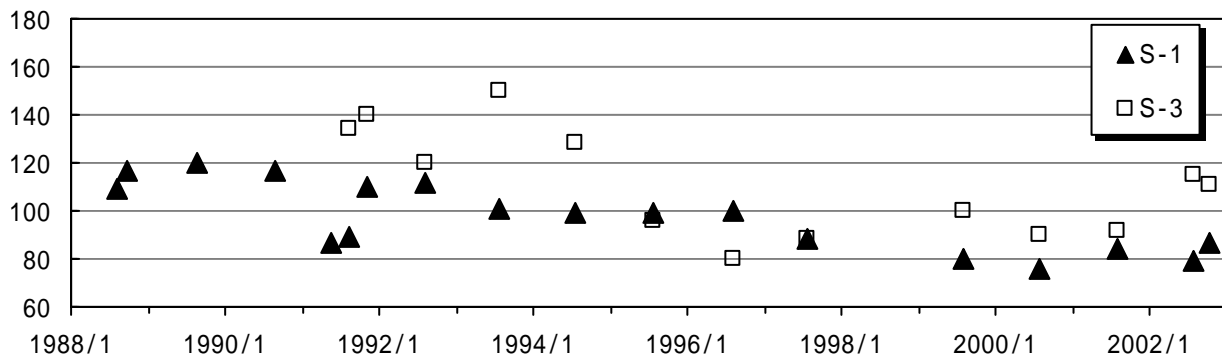
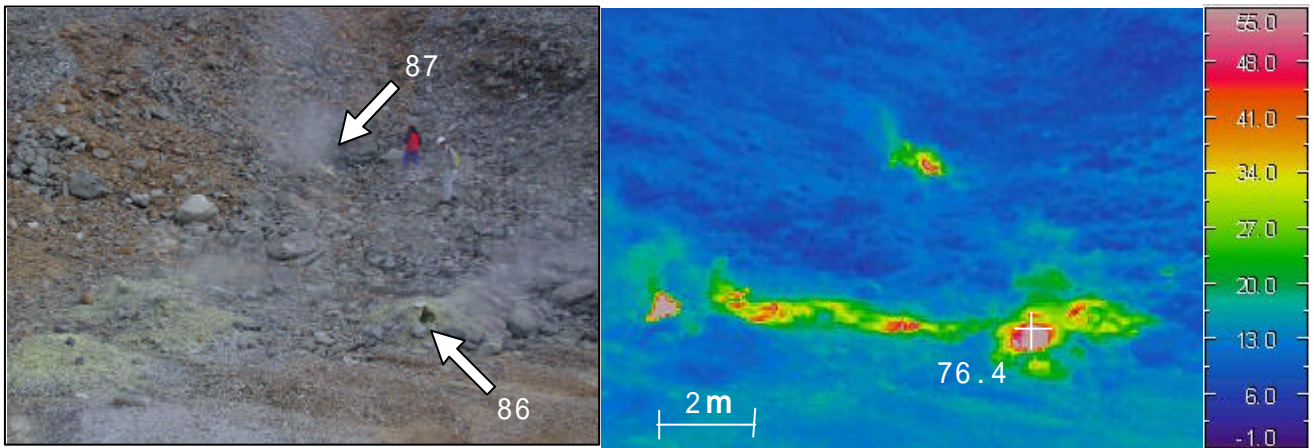
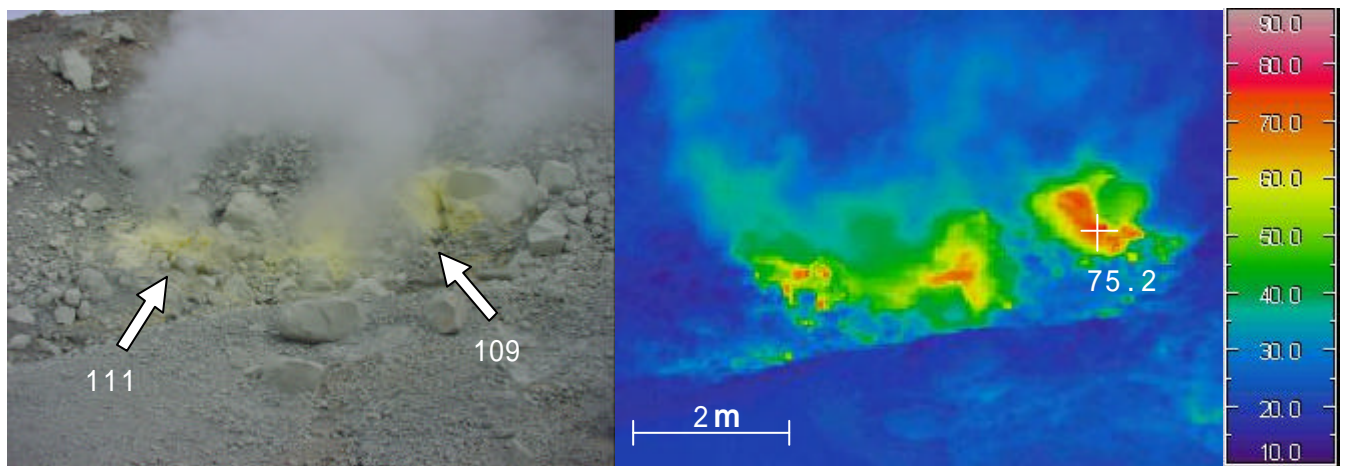


図4 御嶽山 王滝頂上噴気孔 最高噴気温度 (1998年8月～2002年10月)

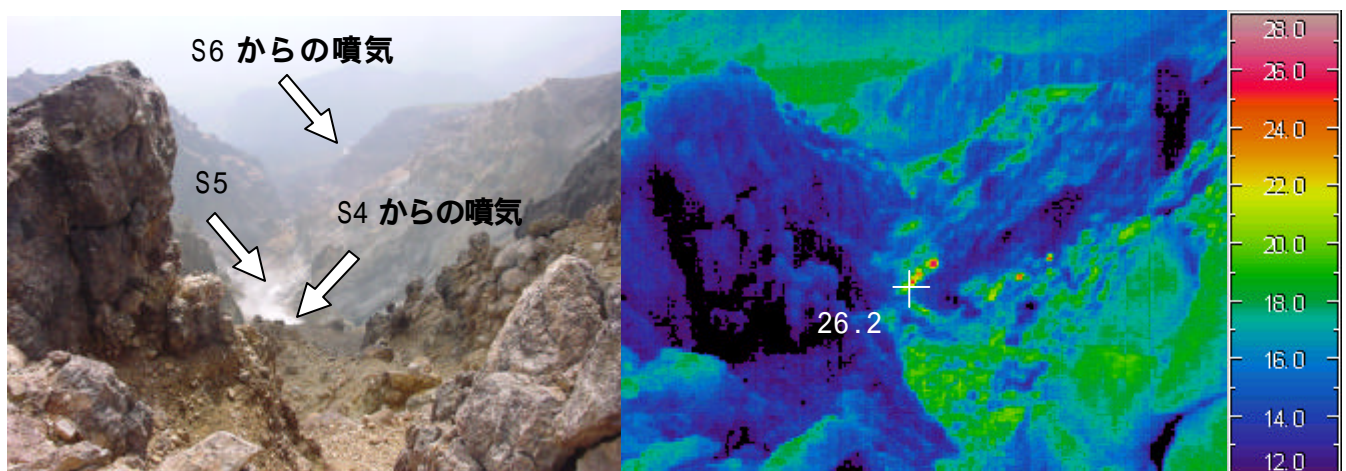
*サーミスタ温度計による測定



S-1 噴気地帯



S-3 噴気地帯



剣ヶ峰から観測した地獄谷噴気地帯（S4、S6 噴気地帯は直接見えない）

図 5 各噴気地帯の状況

左：可視画像（温度はサーミスタ温度計による噴気温度）

右：熱赤外映像観測装置による地表面温度分布（温度は最高値）

噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、噴煙の高さの最高は200mで、特に異常な変化は認められませんでした(図6)。

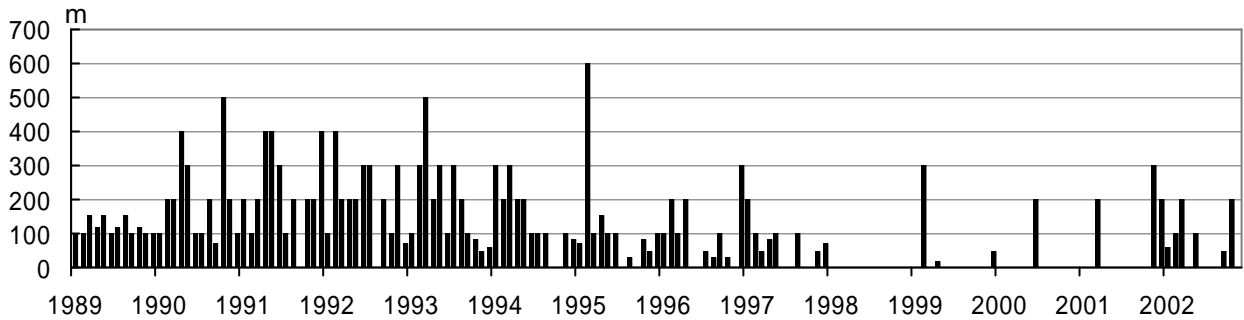


図6 御嶽山 月別最高噴煙高度 (1989年1月～2002年10月)

地殻変動の状況

GPS観測では、火山活動によるとみられる変化はありませんでした(図7)。

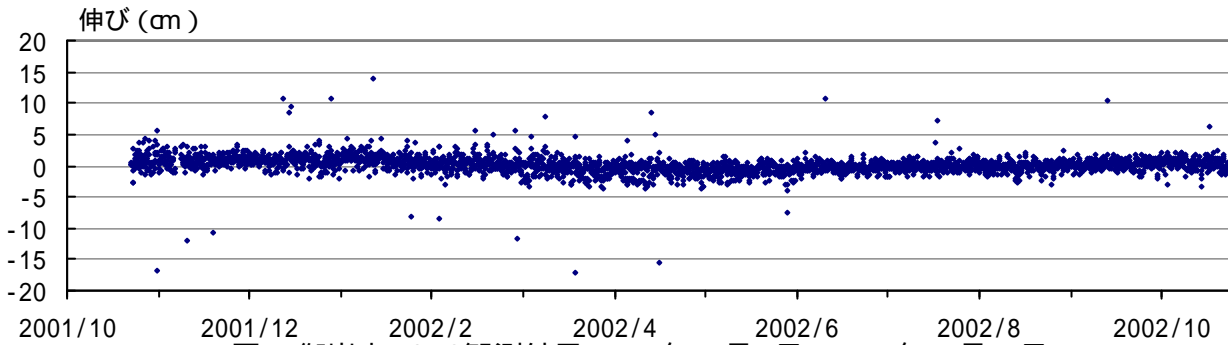
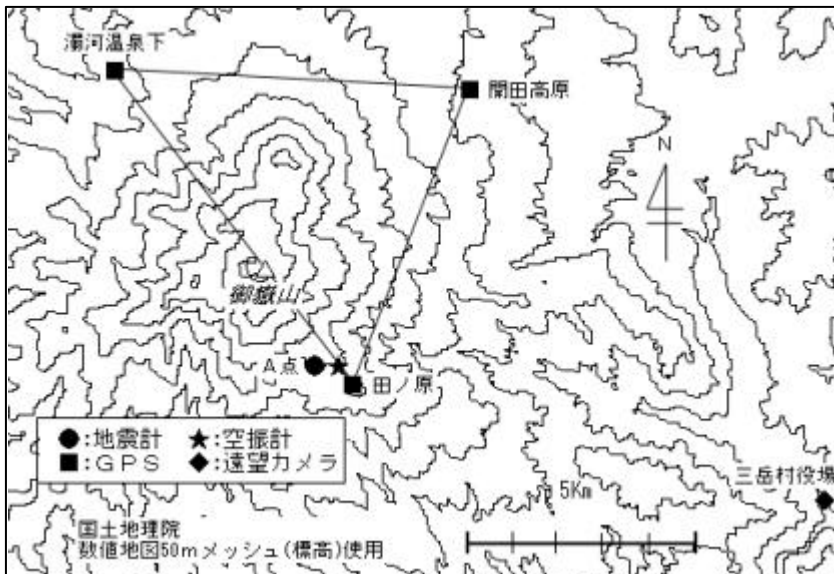


図7 御嶽山 GPS観測結果(2001年10月1日～2002年10月31日)
田ノ原 - 濁河温泉下 基線長

御嶽山 観測点配置図



今月から、GPS観測点の名称を以下の通り変更します。

新	旧
田ノ原	田ノ原
開田高原	開田マイアスキー場
濁河温泉下	濁河スキー場